

## 議 事 録

会議の名称	令和6年度常陸大宮市総合教育会議
開催日時	令和7年1月27日（月） 午後1時30分
開催場所	常陸大宮市役所4階 議会会議室
出席者	<p>鈴木市長 小野教育長 宮田教育委員 橋本教育委員          宮本教育委員 菊池教育委員</p> <p>(事務局)</p> <p>堀江企画部長 秋山秘書広聴課長 野上秘書広聴課係長</p> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>木村教育部長 小泉学校教育課長 関学校教育課指導室長          小室生涯学習課長 掛札文化スポーツ課長 青山学校教育課課長補佐          長嶋学校教育課課長補佐 坏学校教育課指導主事</p> <p>(傍聴人) 5名</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 協 議 題              学力向上にコミットする教育の推進について              部活動の地域移行について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点筆記

## 会 議 内 容

### 〈午後 1 時 30 分開会〉

#### ○堀江企画部長

ただ今から、令和 6 年度常陸大宮市総合教育会議を始めさせていただきます。  
それでは始めに、鈴木市長よりご挨拶を申し上げます。市長よろしくお願ひいたします。

#### ○鈴木市長

皆さん、こんにちは。今日はですね、大変お忙しい中、また今の時期が一年の中で一番寒い時期なんですけれども、大変お寒い中をですね、令和 6 年度常陸大宮市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より常陸大宮市の教育の充実、発展のため、ご尽力、ご協力をいただいておりますことに対しまして、心から感謝を申し上げます。

さて、本日の協議題の一つ目は、学力向上にコミットする教育の推進についてであります。こちらは、私が市長就任以来、未来を担う本市の子供たちのために実践すべき政策として掲げてきた取り組みであり、成果と課題が見えてきたところではないかと思ひます。

また、二つ目の部活動の地域移行につきましては、令和 4 年 12 月に国からガイドラインが示されております。そのガイドラインで、地域移行は、学校を含めた地域で育てるという認識のもとで、地域の実情に応じたスポーツ、文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すとしております。しかしながら、指導に当たる人材の確保を始め、移動手段や受益者負担の考え方など、課題が山積している状況でございます。

ぜひ、教育委員の皆様とは教育施策の方向性を共有し、連携を深め、本市のより良い教育の実現を目指していきたいと考えておりますので、本会議が有意義なものになりますよう、皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。

それでは、本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

#### ○堀江企画部長

ありがとうございました。

続きまして協議に入ります。ここからの進行は、「常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱」第 2 条第 1 項の規定によりまして、鈴木市長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

#### ○鈴木市長

それでは、暫時の間、議長を務めさせていただきます。まず、本日の会議につきましては、「常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱」に基づき、公開といたします。公開の方法は、傍聴を希望する者を認めることとしております。現在の傍聴希望者は 5 名です。ただ今、傍聴人の方に入室いただきますので、ご了承をお願ひいたします。

(傍聴人入室)

○鈴木市長

次に、「常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱」第5条第2項の規定により、今回の議事録署名人に橋本教育委員及び宮本教育委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、会議次第3の協議題に入ります。

協議題につきましては、より意見交換のしやすい協議進行とするため、この間、企画部長に座長を任せたいと思いますので、ご了承願います。それでは企画部長お願いします。

○堀江企画部長

それでは、座長を務めさせていただきます。

最初に、協議題1「学力向上にコミットする教育の推進について」を議題とします。概要について、学校教育課より説明をお願いいたします。

(坏指導主事説明)

○堀江企画部長

説明が終わりましたので、それでは、この件につきまして皆様にご意見をいただきたいと思えます。

なお、より闊達な議論をできるように、ここから自由討論により行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、皆様からのご意見をよろしくお願いいたします。

○鈴木市長

質問なんですけど、良いですか。ハイパーQUテストというのをやって、クラスの実態を把握して、その後のアクションっていうのは例えばどんなことがあるんでしょうか。

○坏指導主事

日本教育カウンセラー協会の理事の藤川章先生という方を講師としてお招きし、ハイパーQUのテストの見方と活用方法についてお話をいただきました。その際に、QU対応シートという先生がお作りになったシートを基に、先生方と一緒に演習を行って、どういうお子さんに対してどういう支援が必要なのか、今このお子さんがこういう気持ちでこのアンケートに答えている等の見取りを通して、授業づくりにつなげていけるような研修会を行っております。

そして、その研修会の内容を各学校に持って帰って、校内研修の中で伝達していただいて、全学級担任の先生方にQU対応シートを作成していただいております。

○鈴木市長

例えば、そのハイパーQUテストをやった結果、非常に相性の悪い子供が教室の中に2人、それが隣同士の席だったから、ちょっと離して席替えしようとか、そういうことはやっているんですか？

○坏指導主事

席替えだったりグループ作りの際にも、この結果から配慮しております。

○鈴木市長

もう一つ質問なんですけど、8ページ、9ページにある資料3の1、これは偏差値ですか？

○坏指導主事

はい。

○鈴木市長

偏差値ということは、大体その中央値がどのレベルにあるかということなんですよ。

○坏指導主事

はい。

○鈴木市長

つまり、センターが100の物差しにしたときにいくつありますってということなんですよ。

○坏指導主事

はい。

○鈴木市長

それから、最後の質問なんですけど、一番大事なのは、学校の先生がこれだけ知見を積み上げて、スキルアップできるかっていうことが、多分将来的に大きな成果を生み出すと思うんですね。その辺は実感としてどうですか。

○坏指導主事

昨年度、今年度と、学校訪問させていただいている中で、先生方の授業づくりに少しずつ変化が現れているのかなと思っております。

教師主体の一斉授業ではなく、子供たちと一緒に協働的な学びにつなげるような仕掛けのある授業が各小中学校でなされていると感じております。

○鈴木市長

学校の先生の志気はどうですか。高いですか。

○坏指導主事

はい。とても熱心に研修会等でも意見交換してくださっていると感じております。

○鈴木市長

はい。分かりました。私からは以上です。

○小野教育長

今、市長からの質問にあったんですけれども、我々教員だと当たり前だと思っていること、例えば学級の中でそういった、人間的にちょっと関係がうまくいかなくて、何かに入れなかったり、グループの中で弾かれてしまったり、本当は誰々と遊びたいんだけど、誰ちゃんは誰と仲良くしてるから、とか。そういったものは、実際に教員としては、今までは身に付けてきた教員としてのスキルとか能力がベースとして、それを見抜く力というのが要求されていたわけなんですけど、でも、実際問題として、そこにその力の差っていうのがどんどん生まれてきたり、できる、できない人が出てくるわけですね。そういった点では、このQU、それからNINO、NRT、こういったいわゆる可視化するっていうことを、きちっと教育委員会を中心に学校の先生方に与えているということは、ものすごく先生方としては、自信に繋がるし、それから、「よく分からないけどこうなんだよな。」と思っていたことが、「なるほど。そういう理由でそうなんだな。」っていうことが分かりますので、非常に自信が持てると思います。ですから、多分、何年かここにいらして、これに慣れて、自分の学級経営を上手に使えるようになった先生は、他の市町村に行つて、これが無いのがすごく不安を感じるんじゃないかなと私は個人的に思っています。

以上です。

○鈴木市長

本当はハイパーQUなんかなくてもね、先生の単独スキルでそれができるのが一番なんですよ。うね。

○小野教育長

そうですね。

○鈴木市長

そこに至るまでの、一つの道具っていう感じで良いんですかね。

○小野教育長

そうですね。間違っていることもあるので、偏見とか、それから長くいて、気が付いてみたら違っていたということも私自身でも経験していますので、そういった点でやっぱり大事な尺度だと思っています。

○宮本委員

私、保護者として、授業参観であったり、体育祭とか、あとは合唱祭に行ったりですとか、あとはPTAの仕事で行ったりしているんですが、体育祭が学校の中で比較的最初の行事になります。まずそれでクラスの団結が深まって、あとは授業参観を見に行っても、やっぱり先ほどお話をあったように、以前だったら、先生が一人で喋って、それをノートを取るような感じだったんですが、グループを作ってそこで発表したりとか、グループの中で話し合つて、じゃあ代表で誰かが発表するですとか、そういった授業が見受けられたりしました。あとは、11月に合唱祭があったんですけど、どのクラスも、ものすごく一生懸命がんばったなっていう様子が見て取れて、先生も、ものすごく熱心なんですね。それで、学年で優勝したクラスはもちろん大喜びなんですけど、優勝できなかったクラスも「すごくがんばったね」って、そのがんばりが、見てた保護者にも伝わるような、そんな感じでした。

○鈴木市長

もう保護者の目から見ても、めきめきと変わりつつあるということでしょうか。

○宮本委員

すごく雰囲気が良いなというのは感じました。

○鈴木市長

宮本委員のクラスがたまたまかもしれないけど、期待したいですね。

○宮本委員

でも、どのクラスも、どの学年もそう感じたので、まとまっているとは思いますが。

○橋本委員

私も、QUテストのことなんですけど、私が現職の頃、担任をしている頃から、このテストはありました。で、私は生徒指導が長いんですけども、子供たちの様子と、実際数値的に出ているものを比較してみると、「本当かな」というのがありました。やはり、私の前で生徒が行動するものと、数値的な調査の方では、少しずつ違っているんですよ。でも、実際には私の前だからこういう行動をするけれども、実際にはお互いの関係があまり良くないとか、そういうものも数値的に現れますと、かなり信頼性は高くなってきますので。前期・後期で学校訪問をさせていただいたんですけども、その時も、いろんなところで先生方から、「このQUテストについてはこういう状況で、こういうふうな形で生かしている」というのをよく耳にしましたし、説明もありました。ですから、現場ではかなり重視しながら指導されているんだなということ、この数値的なものをこういうふうに調査しているのはすごく良いことだなと思いつつながら数値を見せていただきました。以上です。

○菊池委員

先ほど市長が話されたように、本来ならば、児童理解、生徒理解、そうした目を養っていくということは、こうしたものに頼らずとも、日々の日常の一人一人の観察であったり、積み重ねであるところなんだろうけれども、やはり主観が入ってしまうといった部分もあるわけなんですね。ですので、こうしたハイパーQU等を使って、より客観的に児童生徒を理解したり、あるいは学級集団を理解するといった部分も、教師の資質、力量を高める上で大切なことなんだろうなと思います。そうした面で、常陸大宮市の教育委員会の方で、あるいは常陸大宮市の方で、全面的に予算を添えてやってくださっていることは、本当に先生たちにも有り難いことだなと。先ほど教育長もおっしゃいましたように、ここを離れて改めてその存在の有り難さを知るものではないかなと感じます。

一つ質問なんですけど、研修会に各学校が参加しているということなんですけど、確かな学力育成プロジェクト研修会、こちらの方が8月に行われ、ハイパーQUも8月に行われ、授業づくりの研修会も8月に行われる。8月は教師の長期休養期間というところもありますので、一つの学校で複数の先生が参加できるという状況なのか、あるいは、何年かやっていけば、昨年参加してる先生じゃなくて、次は参加してない別の先生が参加するとか、どういう状況で先生たちに研修を募ってるのか、お聞きしたいなと思います。

○坏指導主事

はい。確かな学力育成プロジェクトの中に、「授業づくり部会」と「集団づくり部会」の二つの部会を作っております。各小中学校から、それぞれ一人ずつ先生を選出させていただいて、「授業づくり部会」の時はその部会の先生、「集団づくり部会」の時はその部会の先生、「合同部会」の時は、そのお二人の先生に参加していただいています。そして毎年のように、「昨年度はこの先生だったので、今年度は別の先生」というように、学校の方でも、研究主任だったり、学年主任だったりというように、工夫して選出していただいている様子が伺えます。

○菊池委員

そこは大事なところだなと思うんですよ。教職員一人一人の力と資質を高めていく上でね。毎年同じ人が学校に通って伝達ということではなくて、違った人が経験して、そして伝達していく。そして、複数なのかって聞いた理由は、私も現役の頃、夏休みによく研修に行って、その研修の報告をやるわけなんですけれども、一人で行った研修はやっぱり全体の教職員に広めていくときに、ちょっと弱いんですね。複数で参加していると、アピール力とか訴える力があるので。そうした意味でも、8月はそれぞれ参加しやすい時期だと思うので、より複数、多くの教職員が直に講師の先生から話を聞くというのを大事にして、そしてまた学校でも重く捉えて、子供たちの教育に生かして、そして結果を成果としてあげてもらえれば、本当に積み重ねになってくるのかなと思いました。

○堀江企画部長

他にどうでしょうか。

○鈴木市長

最後に一言だけ良いですか。学校の先生はいろんなところに異動になったり、長い年月の間にたくさんの子供を育てるかもしれませんが、子供にとっては最初で最後の小学校1年生であり、中学校1年生なんですよね。だから、その辺も含めてお金じゃ買えないような価値を提供してくれるような先生が、私は大事なんじゃないのかなと思います。また、こういうツールについてはまだ始まったばかりですので、これからも続けていきたいなと思いますので、ぜひ、良い先生を育ててもらえるように、教育委員会の皆様方にはよろしく願いいたします。

○堀江企画部長

他によろしいでしょうか。

それでは、以上で、協議題1の「学力向上にコミットする教育の推進について」は、協議を終了させていただきます。

次に、協議題2「部活動の地域移行について」を議題としてまいります。

概要について、文化スポーツ課より説明をお願いいたします。

(掛札文化スポーツ課長説明)

○堀江企画部長

説明が終わりましたので、それでは、この件につきまして皆様にご意見等をいただきたいと思います。こちら自由討論により行いますので、よろしく願いいたします。

○鈴木市長

土日祝日は3時間しかやらないんですか？

○掛札文化スポーツ課長

はい。土日いずれかの3時間以内っていうのを市のガイドラインで示してございます。

○鈴木市長

市のガイドラインですか？

○掛札文化スポーツ課長

はい。

○鈴木市長

国のガイドラインはどうなんでしょう？

○掛札文化スポーツ課長

国も同様です。土日は3時間ですね。

○鈴木市長

学校の先生が教えてるのに、土日のどちらかの3時間、他の指導者に教わって、指導者が違ったら教え方も違うし、そこはどう調整するんでしょうか。例えば、野球とかサッカーとかは。

○掛札文化スポーツ課長

まず、バレーについての実施について、部活の顧問の先生、それから今回指導に当たっていただく指導者の方と、できますかできませんかっていう部分も含めて、事前に調整会議をさせていただきました。その時、ある中学校の先生方も、指導が違うのは当たり前だと。ただ、結果的にいろんなやり方があるって、自分に合ったものが身に付けば良いというような意見がございました。ただ、市長がおっしゃるように、多分、指導の違いって子供にとって一番大きいと、私も個人的に思います。

○鈴木市長

どっちについて行って良いか、分かんないですもんね。

○掛札文化スポーツ課長

はい。4校ありますから、例えば今、野球部っていうのは各校20名ぐらいいるんですね。そこは指導者が確保されればっていうことになりますけど、他の一対一の指導の中で引き継ぎをするとか、こういう形でやってほしいっていう、それぞれ指導方法があると思うので、そういう調整が本当にできれば、よりベターな話だと思うんですけど、そういう形で進められればという考えがございます。

○鈴木市長

あと、学校の先生の中で、本当に部活動が負担だって思っている先生もいるのかもしれないけど、中にはね、「俺はもう金の問題じゃないんだ。この子供を育てたいんだ。」っていう熱い先生もいるんじゃないんでしょうか？その辺はどうですか？

○掛札文化スポーツ課長

昨年の8月から9月にかけて、中学校の先生にアンケートを実施させていただいたんです。回答が多分70名切ったぐらいだと思うんですけど、その中で、引き続き部活動を希望したって言われた方は13名ほどです。

○鈴木市長

何人中ですか？

○掛札文化スポーツ課長

70弱で13ですから、10パーセント超えたぐらいです。

○鈴木市長

自分の本職じゃないんだけど、このクラブを担当してくださいって言って任されているような人たちが、やっぱり希望しない人たちなんだろうね。

○掛札文化スポーツ課長

そう想定できます。まだ分からないって方もおりますけど。

ただ、この地域になりますと、先生方の協力って必然だと個人的に思っています。つくば市の例がよく成功例として出てきますけど、それは筑波大っていうバックボーンがあって、その中でいろんな卒業生がクラブを立ち上げて、それで指導に当たってという、人材にも非常に恵まれた地域です。この県北地域は、そこは全く状況が違いますので、学校教育との連携になるんですけど、4月以降、先生方が赴任される中で、部活動に顧問していただける、兼職兼業という制度の中でご協力いただけるかっていう部分を、中学校だけではなくて小学校の先生方に対してもアプローチをかけて、指導者という部分で一人でも多くの方を確保したいと思っていますところなんです。

○鈴木市長

スポーツ少年団の指導者とか、いっぱいいますよね。野球だとリトルリーグは硬式になっちゃうから、軟式野球とか。その辺はどうなんですか？指導者として。

○掛札文化スポーツ課長

昨年の7月か8月にスポーツ少年団の常任委員会がありまして、そこでご説明をさせていただきました。返ってくるものはなかったっていうのが現状です。あとはそこに対する対価ではないんですけど、今のスポーツ少年団って、ほぼボランティアで指導に当たってる方がほとんどだと思うんです。リトルも含めてですけど。今回のこの地域クラブについては、若干の謝金も想定してございますので、指導員対象者には、その点もご説明いたします。

○橋本委員

質問なんですけど、6ページの、平日は今まで通り学校で実施ということになってはいますが、そうすると、今までと同じってことは、時間帯ってというのは、勤務時間以外も含めて同じような指導をお願いするってことでしょうか？

○掛札文化スポーツ課長

平日ということで今おっしゃられたものについては、これはあくまでその学校の部活動として通常の顧問の先生が実施しますというところです。

今回進めてる地域クラブっていう部分についても、あくまでその中体連登録っていうものは、この地域ではなくて、各中学校でのバレーだったらバレー、野球だったら野球っていう中体連での出場というものを想定しております。

○橋本委員

そうすると、「自分の専門でもないし、運動は苦手で」っていう人が顧問になって負担になっているという数値が上がってきてるわけです。それに対しての解決には全くなってないわけですね。平日、今まで通りだとすると。

ですから、例えば勤務時間だから、5時以降については社会教育に切り替えて、やっていただける人にはもちろんお金も払いますのでやってくださいっていう形で、先生方は「俺はできないよ」っていう人は避けられるってならないと軽減にはならないのが1点。

それで、土日だけに限ってっていうと、先ほど挙げられたような、逆の意味での問題も多くなる。

それは置いて、質問なんですけど、7ページの方で、地域クラブでの指導者が人数的に延べで16人ぐらいと言っていましたけど、これは学校の先生方は入ってないわけですね。ですから、先ほどのように、ある程度の費用とか、あとは責任ですとか、用具ですとか、そういったものも含めて、週末ないし指導していただける方がいれば、先生方もかなりの人数で入ってくる可能性もあると思っています。その中でいろいろと話し合わないで、具体的なものにはならないんじゃないかなと思います。

ですから、ここでバレーと卓球についてはもうスタートしているってことなんですけど、それは一体、じゃあ誰が指導しているんだ、地域の人が指導してるのか、それとも学校の先生が指導しているのか、費用とかそういったものはどうなっているのかを聞きたいです。

○掛札文化スポーツ課長

まず、平日の部分についてですが、今の体制から考えると、部活動を指導する外部指導者、要は外部コーチっていう部分の活用であったり、あとは、先生を退職された方の部活動指導員っていう、そういう体制も考えられるかだと思います。ただ、今こちらで考えているのは、平日の部分につきましては、外部コーチでやっていただける場合はそういう方にご協力をいただいて指導していただきたいと思っておりますし、土日については、今のところ、地域クラブ指導員とっていますが、外部コーチの方にも声をかけようと思っております。その点については、各中学校を通して、どういう方がいますかということで、1月の第2週あたりに学校から回答いただいたので、その方に対して同様に休日の部分についても指導者として協力していただけるようアプローチをかける予定であります。そういうことで、指導者を確保していきたいと考えています。

それから、2点目の16名ということになりますけど、これについてはあくまで市内外の一般の方です。橋本委員が言われたように、当然、費用とか責任とか、いろいろ問題はございますけど、

先生方の協力ができないという部分がありますので、そこは、例えば謝金については、学校でも部活動で1時間いくらってという単価があります。それを上回る形でこちらは考えているんですけど、地域指導員とすると、これだけの報償費と言いますか、謝金が出ますということもお話ししながら調整をさせていただきたいと思っています。

それから、今回、地域移行を試行しますバレーと卓球ですけど、バレーについては三つの会場で実施します。これは指導者の都合、会場の都合もあるんですが、2月1日に大宮中学校にそれぞれの生徒が集まります。そこに顧問も参加します。ただ、その指導については、今回手を挙げていただいた地域指導者の3名の女性の方が指導に当たって、各顧問の先生方がそれを見るような、若しくはサポートする形で回します。それから3月1日が第二中学校、それから3月15日が山方中学校というように、会場を持ち回って、それぞれ保護者の送迎の中でやりましょうという形で実施をいたします。

卓球については二つの会場ということでお話ししましたが、2月、3月の、第2、第4については山方中学校で行います。山方に卓球クラブをやっている方がいるんですけど、そのメンバーが中心となって、指導者が3名程度になると思います。もう一方については西部のサブのアリーナで、球友クラブの方が中心になって、そこは日曜になってしまうんですけど、会場とそれから先生、指導者の都合で、2月から3月にかけて、3回ほどなんですけど、日曜日に試行的に実施する予定です。指導についてはこの地域クラブ指導員って形で、こちらに登録をいただいた方に指導していただいて、その状況を見ると。我々も参加しながら、どういう状況かというのを拝見したいと思っております。

#### ○橋本委員

ありがとうございます。すごく大変な思いで進められていると思います。自分の例をお話ししますと、私、実際には体操しかやっていなかったんですが、中学校教諭時代は柔道部の顧問で十数年やってきました。その中で専門的な指導っていうのはほとんどできない状態でしたので、いろんなところに行きました。私は練習試合っていうのはほとんどやらずに、合同練習をお願いしますって言って行ってたんですけども、指導者の先生に、「この子にこの技をこの先生にお願いします。」と言って、大きなところでは、筑波大の先生に、この子に内股を教えてくださいってお願いしたら、たくさん組んで指導していただきました。多分、地域なり、学校の先生なり、中心になる方、ある程度責任のある方がいて、その子に合ったような、例えば卓球でも、「どうしてもここをなんとか直したい」という時に、誰先生にお願いする、外部の専門の先生にお願いするとか、そういう工夫をしながらやっていけば、地域に移行したり、負担も少なくできるんじゃないのかなと思っていますので、その辺りも、これから先進める上では、外部の人と先生方もコミュニケーションを把握しながら進めてもらえたら、結果的には子供たちが伸びるんじゃないかなと思っています。

以上です。

#### ○堀江企画部長

ありがとうございます。他にどうでしょうか。

#### ○宮本委員

先ほど市長から、少年団の指導者の方で、というお話があったんですが、うちの次男が少年団に実際所属していて、その監督さんなんですけど、大体土日、何もなければ午前中どちらも練習で、試合があるとなったら監督さんは1日いる。それ以外に、中学校になって知ったんですが、

その試合の審判を監督さんがやっていたんです。登録していれば声がかかって、そこに行くんだってことでびっくりしたんですが。なので、少年団の指導をされてる方は、今こういう話が出てるけど、じゃあ中学校もやりますっていうのは難しいかなと思ったんです。ただ、教わってる子供たちの保護者は、やっぱり自分がやっていたスポーツだから子供にやらせたい、それで、子供も興味があるから入ったっていう保護者の場合は、すごく熱心に、監督とかコーチではなくても教えている方がいるので、この前、各少年団の指導者の方を集めて話をしたっていうことだったんですけど、少年団に入っている保護者の方たちにも話をしてほしいとか、例えば、こう案内を作って、これを保護者に配ってほしいっていうのをやってみたらどうか。実際、まだ小学生のうちには、自分の子供に手がかかるので、指導者っていうところまでは回らないかもしれないんですが、手が離れた時に、ちょっとチャレンジしてみようかなっていう方も、もしかしているかなって思いました。

あとは、7ページの今後の課題のところでもいろいろあるんですが、子供があるスポーツをすごくやりたくて、保護者もそれを一緒にがんばろうっていう方たちは、実際、もうすでにクラブチームに所属しています。ただ、やっぱり、子供にかけられる時間的余裕とか、金銭的な余裕がないっていう保護者は、実際、この部活動の移行の話が出ていて、「土日に保護者が送迎するんだったら無理かな」、「これ以上お金がかかるんだったら無理かな」、「子供にはちょっとやらせてあげることはできないかな」っていう話もちらほら聞きます。あとは、今の中学生に話を聞くと、部活があるから学校に行くっていう子供たちも実際にいて、今はまだ放課後は学校の方でっていうことになっていますが、今後、これがどんどん進んでいって、学校で部活をやらなくなってしまったら、学校に行く子って減っちゃうのかなっていう不安も感じています。

以上です。

#### ○掛札文化スポーツ課長

本当に貴重なご意見ありがとうございました。人材確保については、本当に一人でも多く欲しい部分なので、スポーツ少年団の保護者とか、市報でも1回投げてもらっているんですけど、そういう形でも対応を考えたいと思います。ありがとうございます。

#### ○菊池委員

先ほどの説明の中で、70人の教職員でしたでしょうか。「外部指導者として部活の指導できますか」って聞いたら、「できる」と答えた人は13人だったということなんですけども、その13人の年齢的なものって分かかりますか？

#### ○掛札文化スポーツ課長

少々お待ちください。

#### ○橋本委員

調べている間にですけど、保護者が送迎するじゃないですか。ですから、自分の子供がいる間は見られるよっていう逆の面もありますよね。うちの娘なんかは送迎して、待ってる間に、サポートしてあげたとか、そういうこともありますから。だから、指導者ばかりじゃなくて、コーチでもないけども補助員としてボールを拾ってあげるとか、そういったのにも参加できる保護者っていうのは逆に多いかもしれないですよ。その辺も考えをもらえればと思います。

#### ○掛札文化スポーツ課長

先ほどのアンケート結果なんですけれども、83人に対しまして、回答が62人です。

その中で、「指導を希望したい」という回答があったのは11人です。で、「希望しない」が38人で、「その他」が13人でした。勘違いしております、大変失礼しました。

それから、年齢のお話になるんですけど、集計された結果を見てまして、マクロに追えば年代まで追えると思うんですが、今、手元にあるものではそこまでは分かりかねます。申し訳ありません。

#### ○菊池委員

分かりました。11人ということですね。なぜ年齢を聞いたかという、今、中学校の先生たちは、中学校勤務すれば部活は持つということで勤務していると思うんですけども、こういう状況が進んで、5年、10年経って、もし平日の部活まで地域移行になる状況になっていくと、ますます先生の中で指導者として手を挙げる人が少なくなってしまうのかなという恐れも、心配もあるわけなんです。なぜ積極的に手を上げられないのかという、やはり複数の学校の子供たち、生徒を指導しなくちゃならないっていう、心の中の壁というか、その辺があるのかな。自分の学校だったらば、これは何とか指導を通して人間的な成長を少しでも支えることができるんじゃないかという思いがありますけれども、やはり土日のどちらか、みんなが集まって、自分の学校以外の生徒も指導するとなると、やはり技量的な面の不安があるんだと思うんですね。ですから、地域の専門家と、11人ということですけども、その先生たちが本当によく今後のあり方について共通理解を図りながら、そして、先輩的な方が後輩たちに何とかできるよっていうように広めて、地域の方だけに頼っていくのは、やはり難しさもあるかと思うので、学校の先生方の意欲を高めて、子供たちの成長を支えてもらえればなと考えるところです。

#### ○宮田委員

地域移行って、すでにもう令和7年度や令和8年度から移行とか、そんな考え方で来てると思うんですけど、今の現状を考えると、2月、3月の地域移行への対策はもう具体的にスタートしているわけですけど、間もなく長期休業っていうのもありますよね。そういうときの部活動で、休日と平日を分ければ、長期休業中であっても、そういう分け方ができて、8月あたりでも学校部活ができるのかなっていう予想はつけられるんですが、生徒自身、そしてその保護者の場合に、やはり地域となると、登下校よりもより遠くの送迎を考えなくちゃいけないっていうところもあったりして、なかなかこう、頭の中で考える地域移行と、現実に行く地域移行って、すごくギャップが大きく出てくるんじゃないかなっていう懸念があって。もうすぐゴールデンウィークとか、そして夏季休業っていうのが目前に迫っているので、早急に夏季休業に向けても考えなくてはならないんじゃないかなと思うんですね。そういうことで、より選択技が増えるとか、あるいは地域と考えれば、少人数に対する対策が取れるというのは、理論では分かるんですが、なかなかうまく現実には対応できないって思うんですね。漠然的なお話ですが、移行に向けて、2月、3月は大体見えてきたようなので、この後、何か月か置きに、目の前のことを考えていかなくちゃならない時期だなって思います。

#### ○橋本委員

地域移行っていても、先ほどの2月、3月でやるのは合同練習的な形なんじゃないのかなって受け止めているんです。ですから、この常陸大宮市の場合には、他の種目とか文化系も含めまして、なかなか地域に移行っていう地区ではないんじゃないのかなって思います。

ですから、できるだけ平日の部活と同じような形、それ以外のところは、土日は学校で練習しているわけですから、一応立場上は切り替えをして、日曜日に練習をしているっていうのは、地域活動として、ある程度先生方が指導していただいて、保証もしますよっていうような形を作って進めていくっていう形が、ここの地域に合うんじゃないのかなっていう気がするんです。あとは、地域の方々にもサポートしてもらうような形がどうかなって思います。

○鈴木市長

私も近いところがあって、土日どちらかの3時間でしょう。自主練にしてしまっっては？自主練にして、市の方で、例えば、私は子供が野球やっているんで、月に1回、土日のどちらかに、例えば一流選手を呼んで、参加者みんな集まって捕球の仕方を教わるとか、そういうイベントを例えば年に12回ぐらい組み込んだ上で、自主練で駄目なのですか？責任とかが出てくるんですかね。

○掛札文化スポーツ課長

どちらかというと、スポーツ教室的なイメージかなと思うんですが。

○鈴木市長

何でそういうことを言ったかっていうと、学校によっては、自分の頭で子供たちに考えさせて、強くさせている学校ってあるんですよ。

例えばこの前甲子園で優勝した慶應高校の野球部はそうですよね。監督は何も教えないんです。今は、子供たちは学ぼうと思ったら、ユーチューブで何でも学ぶんですよ。スポーツ関係でもね。だから、そういう意味では自主練にして、その代わりその方向性を修正する役目として、例えば年に12回ぐらい、本当の一流講師を呼んで、集団で練習する時間を3時間取るとか、その方がスムーズな気がしますけどね。

教育長はどう思いますか。

○小野教育長

皆さんの意見を聞いていて、現実問題として対応しなければならないんですけども、実際、クラブ活動、部活動というのは、スポーツの指導ではないんですよ。人を育てるといものなんです。中学校3年間っていう短い時間ですけど、先生と子供たちは、スポーツを通じて、いろんなものを学びながら、鍛えられるところが鍛えられ、そして喜び合い、規模の大きなところは、もう勝利至上主義に進めるようなシステムになってますし、いろんな課題がありました。野球肩の問題、サッカーの膝の問題で、若いうちに使いすぎてオーバーワークだから子供を潰してるんだっていうことをよく言われたことがありました。いろんなことがあったんです。でも、子供がいなくなってきたので、種目の問題については仕方がないと思います。ただ、我々の時代は、教員が指導するとき、自分の経験した種目を担当できる教員はほんの僅かでした。あとはもう、見様見真似で子供たちと一緒に練習をしながら、とにかくもう笑われながら、親から怒られながらもやってきて。そういった時代ではなくなったと思うんですけども。でも、そういうことですごく大事なものが育っていて。私が心配なのは、結局、学校にいる子供たちが、今度は土日に別な練習をする、又はどこかに行ってやる。実は学校というのは、土日にどういうことをやっていたのかっていうことを知ることがすごく大事なんですね。子供は、昔、月曜日の朝、どうも調子が悪そうな子供がいるっていう時に、「昨日は連投させたんで、今日は少しそっとしてやってくれないか。」って野球部の顧問が言いに来るわけです。「そうか。じゃあ今日は徹底的に指してやろうと思ったんだけど、少しゆっくりさせてやろう。」とか、そういうつまらないことなんですけ

ど、子供をよく総合的に見るということの中にスポーツが入っていて、そして鍛えるものがある。精神力だったり体力だったり。そういったものをみんなごちゃごちゃにして。つくば市の例が出ましたが、アメリカのようなシステムが取れるところは全然問題ないでしょう。やれば良いし、やりたくないことはやらなければ良い。でも、たった3年間の中に、実は大事なことを、嫌なんだけれどもやるとか、がんばるけどできない人もいますし、やらない人もいるんだけれども、そういったものを続けながらやっていたものを、全部なくしちゃって本当に良いのかということだけなんです。今、私が考えてるのは。やらなきゃならないことはやるんですけども、でも、何度も言われてるように、人もいない、物もない、金もないって言ったらば、こんなことできるわけないんです。理想として。でも、何とかしないとと思うんです。

#### ○鈴木市長

そうですね。この環境下で、子供の成長を主体的に考える策を講じなきゃいけないわけでしょう。この地域に合った一番良いやり方が、今教育長が言ったことを含めて、先生と子供たちの関係性も含めて、どういう選択肢があるのかっていうのを多分語り合うのがこの場だと思うんですよね。

子供が一生懸命自主練やってたら、先生は居ても立ってもいられなくなって出てくるんじゃないでしょうかね。それでもやっぱり出てこないのかな。

#### ○橋本委員

いや、出てくると思いますよ。この間、市長さんが言われたとおりでした。今までですと、これをやって、これこれやりなさいっていう指導だったんです。実は私もあの頃はそういう指導だったんです。でもある時、先輩の先生がバスケの郡大会の決勝の場で戦っている時に、5人のレギュラーメンバーの中に今まで選手として出られなかった子を出場させたんです。それも、相手側の監督が。そうすると、周りの4人は、その子にシュートをさせたくて必死でディフェンスして、その子にボールを集め始めたんです。そういうのを、大会が終わってから、飲み会をしながら、「あの時は」という話を聞いた時に、すばらしい、まさに部活動だなんていう気がしていたんです。ですから、これからっていうのは、生徒たちもやらされているんじゃなくて、自分達で工夫しながら、考えながらっていうような指導もたくさん入ってくるでしょうし、あと、私たちの集いの時に市長さんがお話したことと全く同じですよ。ですから、そういう立場の練習の仕方っていうのも工夫していくと、指導者もまた違った形で負担も少なくなるかもしれないし、保護者もそういう考えで見てもらおうと違ってくるような気がするんですよ。

ですから、今、教育長さんとか市長さんが言われるような形も含めながら、指導体制を作っていけたら、皆さんの負担も少ないかもしれないし、意義のある活動ができる気もします。ただ単に、地域に丸投げしろみたいな形ではないような気がするんですけど。

ちょっと時間がかかるかもしれないですけど、よろしくお願いします。

#### ○鈴木市長

地域に丸投げをやったら、おかしくなると思いますね。

#### ○宮本委員

先ほど市長からの提案で、月に1回っていう案はすごく魅力的だなんて感じました。私の甥っ子が、中学時代にクラブチームに入っていたんですけど、部活は入ってなかったんですね。それで、保護者から、放課後に中学校で自主練の日、筋トレの日を作ってくれたら良いのにと話があ

りました。週に1回でも2回でも、この日は全部活が筋トレ中心にやるっていう日があったら、学校でみんなで高め合って、それでクラブチームの方でもまた活躍できるのになっていうことを言っていたので、それは面白い考え方だなって思いました。

○鈴木市長

今の中学生って、考えも指示待ち族じゃないんですよ。自主練だというと、自分たちでメニューを考えて、さぼらないでやるもんなんですよね。結構。だから、その辺はその辺で、自主練も私は良いんじゃないのかな。そこに担当の先生が、土日が大事だと教育長が言ったとおり、ふらっと現れて、ちょっと様子を見て。それだけで全然違うと思うんですよ。現れてくれるかどうか分かりませんがね。

これは短時間で結論を導ける問題じゃありませんね。

○堀江企画部長

他にご意見はありますか。よろしいですか。

それでは、以上で部活動の地域移行についての議題を終了させていただきます。大変貴重な意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

それでは、議長に進行の方をお戻しいたします。

○鈴木市長

それでは続きまして、次第4「その他」に移ります。何かご意見等あればお願いいたします。無いようですので、以上で協議を終了といたします。進行を事務局にお返しします。

○堀江企画部長

長時間にわたりまして、ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、令和6年度の常陸大宮市総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

〈午後2時52分 閉会〉

(議事録署名人) \_\_\_\_\_

(議事録署名人) \_\_\_\_\_